（１）JICA ボランティア活動現場視察

※写真の説明はすべて参加教員のコメントで構成されています

《JICA ボランティア事業とは》

日本政府の ODA（政府開発援助）の一環として、JICA が実施する事業です。開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、それに見合った技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」と望む方を募集し、選考、訓練を経て派遣します。現地の人々と共に生活し、働き、彼らと同じ言葉で話し、相互理解を図りながら、彼らの自助努力を促進するように活動することを特色とした草の根レベルのボランティアです。

8 月 9 日：サンジワニ・モデル高等学校（小学校教育）

鈴木隊員の授業の様子

≪鈴木このみさん・小学校教育≫
配属校で英語の指導を行っています。掲示物をわかりやすくしたり、授業に紙芝居形式を取り入れたり、工夫しながら、授業の質の改善に取り組んでいます。

「鈴木先生の掲示物の工夫や、分かりやすい授業のための準備が現地の先生にも伝わり、ネパールの教育に広がっていくといいなと思う。」

「鈴木先生は大きな成果をあげたいわけではなく、子どもたちが成長したときに『日本人の先生がいたな』と、記憶の片隅に残ってくれているだけでいいと考えている。」

8 月 11 日：バネパ市役所（環境教育）

≪西川崇浩さん・環境教育≫
配属先のバネパ市の環境改善の活動に加えて、市内の学校での環境教育の授業も積極的に実施しています。

「西川隊員の話を聞き、何時間も歩いて活動場所へ向かったり、市役所での会議に出席したりしていることを知り、『できることをやってみる』という気持ちの大切さを感じた。」

「環境教育は学校だけでなく下水道整備など様々な分野での活動・支援をしていることがわかった。足を使って多くの人と話をする西川隊員の日頃の努力を垣間見られた気がする。」

ぬり絵を使って環境教育を実施する西川隊員

（２）草の根技術協力事業

《草の根技術協力事業とは》

日本の NGO、大学、地方自治体及び公益法人がこれまでに培ってきた経験や技術を活かして企画した、途上国への協力活動を JICA が支援し、共同で実施する事業です。

8 月 7 日：学校における防災をテーマとしたクラブ活動の推進支援事業

実施団体：特定非営利活動法人　プラス・アーツ
楽しみながら学べる防災教育の指導者研修を受けた教職員たちが、各校でクラブ活動を通して児童・生徒に防災を学ぶ機会を提供できるようになることを目指しています。

防災ゲームを実践する現地の生徒たち

「生徒が自分のことばで防災について説明していた。防災教育の実践方法はゲーム、紙芝居などさまざまなやり方がある。教材はどれもオリジナリティにあふれ、大人も楽しむことができた。」
「日本のような避難訓練だけでなく、災害が起きた時にどう行動するか、けがをしたらどう対処するかという細かい部分まで子どもたちは理解している。」

8 月 8 日：障害当事者による震災被災障害者のエンパワメントと主流化

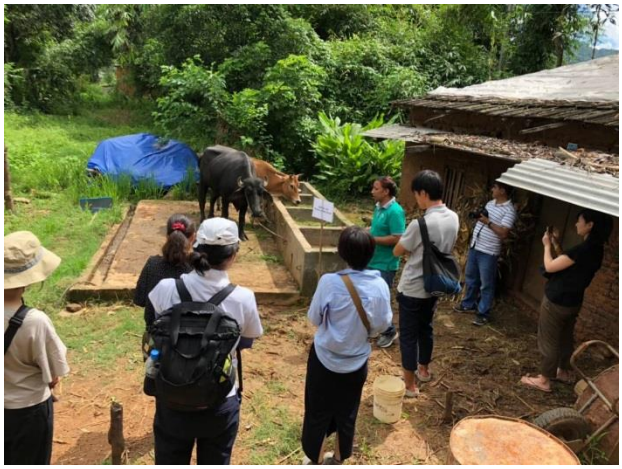
実施団体：特定非営利活動法人　沖縄県自立生活センター・イルカ
ネパール大震災で被災した障害者や新たに障害者となった人たちが、地域で自立生活を送る上で必要な支援を受けられるように、現地に対して技術支援を行っています。

「ネパールでは交通事故、地震などの災害、生まれつきなど様々な障害を持った方がいるが、支援が行き届いていない。」
「障害者の自立を促し、地域から受け入れられるよう支援（キャンペーンの実施など）をしたり、障害を負った人へのカウンセリングも行う。国際協力について考えるときに、マイノリティへの意識を忘れてはならないと思う。」
「完璧に自立できる人はいないが、自立とは、より良く生きていくための選択を自分でできるようにすること。」

車いすに挑戦！

8 月 11 日：カブレパランチョク郡パンチカール市における循環型農業を基盤とした土壌改良と人材育成による持続可能な地域の生計向上体制構築

実施団体：特定非営利活動法人 ラブグリーンジャパン
研修やセミナー等を通して循環型農業を推進し、地域の発展的、持続可能な生計向上の体制の構築を目指しています。


モデル農場視察の様子

「日本人がただ新しい技術を伝えるだけでなく、実際に現地のモデル農家に実践してもらい、広めてもらっている。信頼を得るための工夫だと感じた。」
「途上国こそオーガニックで野菜を育てていると思っていたが、不適切な方法で化学肥料や農薬を使っているため、健康被害が深刻だという。そのため、オーガニックの野菜が見直されてきている。市場で売っている野菜は、着色料で色づけされていることもあるらしい。」

（３）無償資金協力現場視察

《無償資金協力とは》
　相手国政府等からの要請に基づき、日本政府が相手国政府等に対して経済社会開発のために必要とされる生産物及び役務を購入するための資金を贈与し、相手国政府等がこれらの調達等を行うことにより実施されています。

8 月 6 日：パロパカール産婦人科病院の再建
「医療の整備はとても大切であるが、特に新しい命を扱う産婦人科が安全に運営できることは大切である。国内での乳児の死亡率が減ったと知り、この病院の必要性が大きいと感じた。」
「至る所に日本の機械があり、日本の支援の大きさが感じられた。」
「日本の支援の現状を知り、また、現地スタッフの病院への誇りを知り、心動かされた。様々な支援のあり方について学んだ。」

産婦人科病院視察の様子

（４）交流授業

～茨城県・栃木県の先生たちが、ネパールの子どもたちに授業を行いました～

8 月 7 日：ネクスト・ジェネレーション小学校

交流授業の様子

作成したうちわと一緒に記念撮影

「『幸せなことは？』『好きなことは？』というテーマでうちわの裏にメッセージを書いてもらうと、日本の子どもたちと変わらない内容であった。（アニメ、スポーツ、歌うことなど。）」

「活き活きとしたネパールの子どもたちは反応が良く、とても良い表情だった。日本の子どもたちとのつながりを感じてくれた様子だった。」

8 月 9 日：サンジワニ・モデル高等学校

写真を使って日本の学校生活を紹介

うちわ作りに挑戦

「日本の学校の様子を写真で見せると興味津々に見入っていた。」

「うちわを渡すと喜んでくれた。子どもたちの瞳が輝いていて、屈託のない笑顔が印象的だった。」

「日本の子どもたちもネパールの子どもたちを思って一生懸命制作してくれた。喜んでいたことを伝えたい。また、実際にテレビ電話などを使って交流したいことを伝えると現地の先生方も喜んでくれた。実践が楽しみである。」

（５）農村でのホームステイ（村での生活・文化）

8 月 9 日～11 日：パトレケット村でのホームステイ

ホームステイ先の様子

牛のエサを運ぶ様子

「ネパールの文化を大切に守り続けたいという村の人々の強い思いと責任感を感じ、私たちも自分たちが経験したことを、周りの人々に伝えなくてはと思った。」

「自分たちの民族に誇りを持ち、幸せそうに楽しそうに生活をしており、ネパールに行く前とイメージが変わった。」

「大きい水かめ、ペットボトルをもって背負いかごに入れて歩いて水場まで行く。かごは、てこの原理で額と背負いかごにひもをひっかけて持つ。背負いかごを持たせてもらったが、とても立ち上がれなかった。」

ホームステイ先での食事

村の子どもとシャボン玉で交流

「子供に日本のお菓子をあげて良いかと聞いたところ、牛や卵が入っていたら食べさせるのはやめてほしいと言われた。とても厳しく規則を守っている。」

「家の外装や内装は質素だが、スマートフォンからBluetoothでスピーカーに音楽を飛ばして聴いていたり、Facebookをやっていたり、近代的なものも使っていたことに驚いた。」

「ダルバートを手で食べてみた。指を器のようにして親指で押しながら口に運ぶ。難しい。」

「夜の文化交流がとても興味深かった。『たくさんの民族や文化がお互いを尊重し共生することを目指している』という言葉がとても印象に残っている。」

（６）現地 NGO 視察

8 月 8 日：APC（Association For Craft Producers：手工芸生産者連盟）

APC は、手工芸品の生産を通じた女性の収入向上を目指しています。労働環境の継続的な改善や、生産者への福利基金や子どもたちへの学費援助などにも取り組んでいます。

現地の伝統的な方法で染めています

「仕事面だけでなく、福利厚生面も予想以上に整っていることに驚いた（従業員の子供に対しての奨学金など）。」

「作業の多くは手作業であるが、働く人々は『その方が勘が鈍らなくていい』と言っていた。機械化して便利になることだけが真の支援ではないと感じた。」

（７）JICA ネパール事務所訪問

8 月 5 日：ブリーフィング

8 月 12 日：研修報告会

「現地の人々の声を聞きながら活動している JICA のことを伝えたい。」

「『国際的ではないと思っている人も、知らず知らずのうちに国際化の波に飲み込まれている』という話が印象に残った。」

「『想像力を働かせて。目の前にいない人たちの現状を理解しようとし、彼らのために何ができるかを考える力を養う必要がある。』との所長の言葉に身が引きしまる思いだった。」

JICA ネパール事務所 朝熊所長からの挨拶